

次期計画にて取り組むべきまちづくりの方向性の考え方

1 次期計画にて意識すべき課題への対応の考え方

各委員からご意見をいただき取りまとめた「次期計画にて意識すべき課題」の各課題に対しては、以下のような対応を考えていかなければならないものとする。

- (1) 少子高齢化等による財政面の制約
⇒ 税収確保・増につながる取組を行っていく必要がある。
- (2) 地域を支える力の低下
⇒ 地域活動に参加できる場や環境の確保、地域活動の担い手の育成を行う必要がある。
- (3) 県北西部の中心都市としての魅力・吸引力の低下
⇒ 柏の魅力を向上させる取組や地域資源の活用に取り組む必要がある。
- (4) 市内地域特性の違い
⇒ 地域の特性を考慮したまちづくりを行う必要がある。

2 各委員の意見を踏まえたまちづくりの方向性の考え方

課題を基にまちづくりの方向性の考え方について整理を行った。なお、前回において、各委員から、課題と併せて必要な取組等についてもご意見をいただいたので、この御意見も含め、事務局にて以下のような各分野におけるまちづくりの方向性の考え方をまとめたものです。

【留意点】

限られた財源のため、これらの方向性の中から、どの部分に注力（限られた財源の中でより投資を行う）すべきかを、さらに絞り込む必要がある。

(1) 子育て世帯が住みたくなる施策の充実（子育て支援、教育の充実）

全国的に人口減少が進む中、他都市と競争し人口を奪い合っただけで人口増を目指すのではなく、市民の子々孫々までの定着による人口維持・増加を目指し、子育て世帯が住みたいまちづくりが求められる。

(2) 健康な高齢者を増やす、支える取組の推進（健康寿命の延伸）

高齢化対策には子育て支援より多額の費用が発生しており、今後も高齢者数の増加が見込まれる中、健康で、地域活動や

仕事にいきいきと活躍する高齢者を増やす等、一層効果的に高齢者を支える取組が急務である。

(3) まちの活性化(商業機能の活性化、都市農業の発展、企業誘致等)

人口減に対応し都市としての吸引力を高め、歳入増や雇用確保による人口増のための企業誘致や、都市農業や商業機能の再生等、経済面を中心としたまちの活性化が必要である。

(4) コミュニティ機能の再生・活性化

今後の協働・共助によるまちづくりのため、コミュニティ間の連携、地域活動の活性化等による地域力の向上が急務となっている。

(5) 文化・スポーツ等を活かした誇りを持てるまちづくりの推進

文化・芸術，スポーツ，自然等の柏市の魅力・特性を磨き上げ活用し，市民が柏をもっと好きになり，対外的に評価されるまちをつくり，発信する取組が必要である。

(6) 社会環境の変化に応じた都市基盤の整備

子育て期の親子や高齢者等が移動しやすいまちづくり、公共施設の集約・多機能化等、人口減・少子高齢化社会がもたらす各課題に対応した都市づくりが必要となっている。

(7) 未来につなぐ環境の保全

地球環境をしっかりと守り、後世に豊かな自然や美しい環境を引き継ぐことは我々の責務であり、環境面に配慮したまちづくりを行う必要がある。

(8) 住民の生命を守る安全なまちづくりの推進

安全で安心できる暮らしは市民生活の基本であり、その実現は魅力的なまちづくりを進める上でも必要である。また、安全なまちづくりには地域や市民、関係機関等の連携や、市民一人ひとりの認識が求められる。

(9) より効率的・効果的な行政運営

税収の確保がより厳しさを増す中で、社会保障費の増大など行政需要は大きくなっている。限られた財源を効果的・効率的に配分する等の行政運営が一層求められる。

【参考：第2回の意見において課題解決のための手段等であげられたご意見】

- ①市民協働・共助によるまちづくりの推進
- ②行政機能・サービスのイノベーション
- ③公共施設の集約・多機能化